

2020 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	中村 桂子
研究テーマ	太宰治文学論—女性名を中心として—
研究概要	作家 太宰治の実人生と、作品の、女性の登場人物の名前は関連があるのではなからうか？

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>作家 太宰治の実人生と、作品の、女性の登場人物の名前について、時間の流れを整理してみたい。</p> <p><u>昭和 16 年 9 月、太田静子が友人と共に太宰家を初めて訪問。</u></p> <p>「風の便り」(昭和 16 年 11 月)の「五歳」の「私のひとり娘」は、「しづ子」。</p> <p>「水仙」(昭和 17 年 5 月)では、ヒロインの名前が「静子」で、「三十三歳」。</p> <p>「パンドラの匣」(昭和 20 年 10 月～翌 1 月)では、「助手さん」、竹中「静子」。</p> <p>歳は、「二十五だとか、六だとか、」。</p> <p>「春の枯葉」(昭和 21 年 9 月)では、「五十四歳」の「生母」「しづ」。</p> <p><u>昭和 22 年 2 月、神奈川県下曾我に太田静子を訪ね、一週間滞在。</u></p> <p><u>昭和 22 年 11 月、太田静子との間に、治子誕生。</u></p> <p>「人間失格」(昭和 23 年 6～8 月)の、「シヅ子」は、「二十八歳」で「女記者」。</p> <p>この時期の作品の、女性の登場人物の名前を通して、太宰の、太田静子への一途な想いに、改めて、気づかされる。</p> <p>更に、(かず枝・数枝・和子・和子・数枝・かず子)、(まさ子・正子・正子・マサ子・マサ子・マサ子)、(菊・菊子さん・菊子姉上様・菊代・キクちゃん)、等々についても、考察した。</p>
2. 今後の課題	<p>今年度の研究題目である、中村桂子「太宰治文学論—女性名を中心として—」を起点として、更に、論考を進めたい。また、太宰治作品に関する論文を、読破する作業も併せて進めていきたい。</p>